

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくり推進

事業名	あしゆびプロジェクト事業(健康づくり課)	担当課名	健康づくり課
-----	----------------------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
健康寿命延伸のためには、加齢に伴う身体機能低下を予防し、生活の質の維持向上を図ることが重要である。特に下肢筋肉量の減少は、つまずき、転倒につながりやすく、移動能力を低下させ自立の妨げになる。一般市民を対象にした健康教育等により、足機能の重要性を理解するとともに、自らの健康状態を把握し、運動の動機づけを行う。
(事業概要等)
衛生委員会共催の健康教室や市民体育祭等の市内イベントにおいて参加者に足指力測定を実施することで、足機能の重要性やあしゆびプロジェクトの取組の周知を行う。

【事業費】

項目／年度	H30 (決算額)	R01 (決算額)	R02 (決算額)	R03 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	2,896	868	825	2,621	
うち市負担分(千円)	2,448	868	0	0	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	H30年度 実績値	R01年度 実績値	R02年度 実績値	R02年度 目標値
足指力測定者数	人	650	611	583	600

(指標を設定できない理由)

(成果の概要)
令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年「あしゆび力測定」の実施場所であった市内イベントが中止されたが、保健センターで実施するがん検診や健康診査、ヨガ講座の中に「足指力測定」を取り入れることにより、令和元年度と同程度の測定者数とすることができ、あしゆびプロジェクト事業の周知・啓発を行うことができた。

【これまで実施した事務の見直し点】

直近の改善点	令和2年度においては、「あしゆび市民モニター」として民間企業と連携し、足の健康と体の健康の関係性を検証する事業を実施し、足機能の重要性やあしゆびプロジェクト事業の周知・啓発を行うことができた。
--------	--

【課題(問題点)】

課題(問題点)	あしゆびプロジェクトの取組を更に多くの市民に知ってもらうためには、こういった媒体や機会を活用するか等、アプローチの仕方に工夫が必要。また、令和2年度に実施した「あしゆび市民モニター」は、参加者の年齢層にバラツキがあったため、検証結果に有意性を持たせるために、年代別に一定数のデータを取得し、さらなる検証を行う必要がある。
---------	--

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 足機能の低下によるつまずき、転倒、移動能力の低下を防ぐために、足機能の重要性を引き続き啓発をしていく必要があるため。
改革・改善策等の具体的内容		

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくり推進

事業名	健康管理事業	担当課名	健康づくり課
-----	--------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)	健康の維持増進のために、健康に関する知識の普及や健全な生活習慣行動につなげることを目的とする。
(事業概要等)	子育て世代をターゲットにした運動講座を実施。

【事業費】

項目／年度	H30 (決算額)	R01 (決算額)	R02 (決算額)	R03 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	1,059	969	1,098	1,275	
うち市負担分(千円)	783	794	697	919	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	H30年度 実績値	R01年度 実績値	R02年度 実績値	R03年度 目標値
健康教育受講者数	人	1,803	1,322	990	1,230
上記受講者のうち子育て世代を対象とした参加者	人	205	188	50	144
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
子育て世代を中心とした運動教室は保育付きのため、定員に達するものが多い状況である。しかし、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言等の影響により、中止が続いたことや定員数を減らしたことにより大幅に参加者数が減少した。また、平成29年度から実施している筋トレ講座は休日の開催日を設定していたが、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言等により、開催ができなかった。					

【これまで実施した事務の見直し点】

直近の改善点	平成30年度からは、より参加しやすいよう参加負担金を無料とし、保育利用者のみ費用を徴収することとした。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防により参加定員を従来の6割程度に調整し、開催した。
--------	--

【課題(問題点)】

課題(問題点)	講座に参加した人が運動を日常生活の中で継続できるような働きかけや取り組み。健康無関心層への働きかけ。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で一部事業の実施が制限がされたものがあつたため、令和3年度の目標値については令和2年度と同様にその影響も考慮している。
---------	---

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 健康の維持増進のため、新型コロナウイルス感染症の感染症拡大防止対策を講じながら、引き続き健康に関する知識の普及に努める。
	改革・改善策等の具体的内容	

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくり推進

事業名	健康診査事業	担当課名	健康づくり課
-----	--------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
健康に関する正しい知識の普及及び生活習慣病の発症を予防し、生涯にわたって実践できる健康的な生活習慣の獲得を動機づけることを目的とする。
(事業概要等)
①16歳以上の市民及び生活保護受給者に対する健康診査、40歳以上の市民に対する肝炎ウイルス検診、骨粗しょう症検診、40歳から70歳の5歳刻みとを対象とした成人歯科健診の実施。 ②在宅訪問歯科健診…対象者のうち健診希望者はケアマネジャーから申請し、自宅に歯科医師が訪問し実施。健診項目は、全身状態・機能所見・口腔清掃状況・口腔内診査・保健指導。 ③平成29年度から40歳以上を対象とした胃がんリスク検査を実施。

【事業費】

項目／年度	H30 (決算額)	R01 (決算額)	R02 (決算額)	R03 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	8,120	9,287	7,802	10,150	
うち市負担分(千円)	5,819	7,304	6,258	8,150	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	H30年度 実績値	R01年度 実績値	R02年度 実績値	R03年度 目標値
健康診査	人	518	455	495	560
肝炎ウイルス検診	人	275	259	278	270
成人歯科健診	人	150	101	92	135
(指標を設定できない理由)					
(成果の概要)					
健(検)診受診により、自らの健康状態を把握する機会となり健康行動の動機付けを行なうことができた。なお、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により受診者数の減少を見込んでいたが、感染症対策をした上で安全に実施することにより、健康診査の受診者を増加させることができ、健康意識の向上につなげることができた。					

【これまで実施した事務の見直し点】

直近の改善点	平成30年度から、肝がん予防対策の強化として、40歳から60歳の5歳刻みに加えB型肝炎、C型肝炎の感染率が高いといわれる団塊世代の65歳、70歳に対しても肝炎ウイルス検診の個別勧奨を実施した。
--------	--

【課題(問題点)】

課題(問題点)	受診者数増加のために健(検)診の周知と健康行動の普及啓発の取組が課題。ワクチンの接種が進みつつあるが、令和3年度においても新型コロナウイルス感染症の影響で、医療機関への受診控えが懸念される。
---------	---

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 自らの健康状態を把握することは、生涯に渡って健康的な生活習慣を獲得するうえで重要であるので、引き続き各種健(検)診を実施し、健康の意識付けを行っていく。
	改革・改善策等の具体的内容	

事務事業評価シート(概要説明書)

第4次総合計画 の位置づけ	政策名	基本施策名	NO	施策の展開方向
	③誰もがすこやかにいきいきと暮らせるまちづくり	⑤保健・医療	①	健康づくり推進

事業名	食育推進事業	担当課名	健康づくり課
-----	--------	------	--------

【事業の概要】

(事業の目的・趣旨)
平成21年3月に泉大津市食育推進計画、平成27年3月に第2次泉大津市食育推進計画、令和2年3月にいずみおおつ健康食育計画を策定。「食の体験活動」を通して子どもたちが食べる事の楽しさや大切さを心と体で感じるとともに、食の知識を身に付け、健康的な食生活を実践することで健全な体づくりをはじめ、健康づくりにつなげる。
(事業概要等)
主な事業内容 体験活動: わくわく食育体験(家庭でできる栽培体験、親子で取り組めるクッキング情報の発信) 啓発活動: 食育展1回/年、学校園所への情報発信(食育ひろば)、健診での啓発(冊子配付) 統一献立給食: 市内就学前施設及び小中学校での給食を利用し、統一メニュー(おづみんカレー)を実施

【事業費】

項目/年度	H30 (決算額)	R01 (決算額)	R02 (決算額)	R03 (予算額)	備考
事業費総額(千円)	987	552	575	757	
うち市負担分(千円)	909	507	532	621	

【事業実績・成果】

事業実績(活動指標)・成果(成果指標)	単位	H30年度 実績値	R01年度 実績値	R02年度 実績値	R03年度 目標値
食育体験活動(農業・栽培体験参加者)	人	130	109	214	200
食育体験活動(親子クッキング参加者)	人	55	70	-	-
食育体験活動(規則正しい生活習慣プログラム参加者)	人	44	36	19	25
(指標を設定できない理由)					
令和2年度に引き続き令和3年度も、三密を避けて実施することが難しい親子クッキングは行わず、各家庭でのクッキング体験を促すよう情報発信に努める。					
(成果の概要)					
食育体験活動については、土袋を使って家庭で行う栽培体験にしたことで、取り組みやすくなったこともあり、参加者が増加した。参加した保護者からは、自分で育てることにより苦手な野菜の克服に繋がったなどの意見もあった。また、令和2年度からは、統一献立給食にも取り組み、市内就学前施設、小中学校(29施設)で実施でき、食育の推進が図られた。					

【これまで実施した事務の見直し点】

直近の改善点	各家庭で簡単に体験活動に取り組めるよう、栽培活動は土袋を使ったものに見直すことで、新規参加者の獲得につながった。また体験活動期間中に、活動通信の発行や親子で取り組めるクッキング情報の発信を行い、食育への意識が高まるよう啓発を行った。
--------	--

【課題(問題点)】

課題(問題点)	健康や食への意識が低い無関心層へのアプローチ。 新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた事業の実施。
---------	--

【今後の方向性】

担当課の評価	A 現行どおり	(左記評価の理由) 食べる事は生活の基本であり、健全な体づくりをはじめ健康づくりにつながるため、食の体験活動を中心にライフステージに応じた食育推進を行い、自分に合った食生活を実践できる力の獲得に向け、現行の事業を引き続き継続する。
改革・改善策等の具体的内容		